

部局名 農学部

担当：竹下伸一



テーマ 令和6年台風10号の竜巻被害調査(宮崎県農政水産部との連携)

概要:

宮崎県農政水産部との連携により行った令和6年台風10号による竜巻被害調査。宮崎市南部エリアを中心に実施した調査から、被害地域を特定したところ、少なくとも2事例の竜巻が発生したと考えられ、内1事例が現時点で気象庁速報では未認定になっていることが判明した。また、過去の竜巻被害報告を精査し、統計的な特徴を分析したところ、宮崎平野では特に多くの竜巻が発生していること、竜巻の約7割が台風起因していること、台風中心が宮崎県の南西約200km付近にあるときにとくに竜巻が発生していること、台風起因して発生する竜巻の約7割が、令和6年の時と同様に同時多発型であることが判明した。

今後の安全対策に向けた展望

2006年に延岡市で発生した台風13号に伴う竜巻被害など、宮崎県平野部は竜巻が発生しやすいエリアとして知られている。

しかし、2006年以降、顕著な被害がなかったこともあって、2024年までの約15年間の間に警戒心が薄れ、知見の蓄積も少し停滞していたと感じる。

今回の調査結果で判明したことを生かして、台風接近時に、豪雨や浸水害への警戒に加え、竜巻対策についても県内の防災関係機関等と連携をとりながら、県民への啓蒙等に寄与していくことができると考えられる。

▶右図は、調査で確認した宮崎市における竜巻被害地点。赤江～城ヶ崎～和知川原～小松地区をつなぐ被害群は気象庁未認定の被害群。

